

今後の宇宙政策の在り方に関する有識者会議 第3回会合 結果要旨

1. 日時 平成22年3月16日(火) 16:30~17:30
2. 場所 542会議室(合同庁舎4号館5階)
3. 出席者 (政務三役) 前原大臣、大島副大臣、泉大臣政務官
(敬称略) (構成員) 松井孝典、中須賀真一、秋山演亮、薬師寺泰蔵、山川宏
4. 議題 (1) 今後の宇宙政策の在り方について
(2) その他
5. 資料
- 資料2-1 中須賀真一委員提出資料
- 資料2-2 立川敬二 宇宙航空研究開発機構(JAXA)理事長提出資料

6. 概要

(1) 中須賀委員からのプレゼンテーション

中須賀委員より、今後の宇宙政策の在り方について、プレゼンテーションを行い、その後、意見交換を行った。主な意見の概要は以下のとおりであった。

- ・ 利用コミュニティの醸成が重要。宇宙基本計画も、開発サイドからの提案になっているのではないかと。各分野のロードマップを利用コミュニティが作成し、同ロードマップに基づいて、公平に競争・選択と集中が行えるように、利用推進協議会などを設置してはどうか。
- ・ 開発主体であったものを利用者主体にしていくことが重要である。
- ・ ISASをJAXAに組み込むことにより、科学・技術にマイナスの影響を与えたのではないかと。JAXAから旧ISASのようにさまざまなことに挑戦していく機関を分離させ、当該機関で進められる挑戦的な研究開発などが日本の技術・産業全体のイノベーション・ドライブになるようにすべきではないかと。
- ・ 人材育成は重要であるが、これまで我が国としての方針をきちんと決めてこなかったのではないかと。
- ・ 地球観測と情報収集の機能は近いため、プログラムと統合してムダのない仕組みとすべきではないかと。
- ・ 地球観測衛星を用途で区別する必要はないのではないかと。
- ・ 核となる技術を海外から購入していることは問題ではないかと。戦略的に研究開

発を実施すべきではないか。

- ・ 内閣府が地球観測衛星のプラットフォームの役割を担えば、それを使う府省、民間が集まることが予想され、それによって、利用コミュニティができていくのではないかと。
- ・ 国際競争力の強化と連携のため、相手が欲しているものをパッケージとして提供していくことが重要であり、そのための草の根的な国内連携が必要ではないかと。
- ・ 宇宙分野を強化するためには、情報の分析・戦略の提案を担うだけの能力を有する人材を集めて、部局を作ることが必要ではないかと。

(2) 立川 JAXA 理事長からのヒアリング

立川 JAXA 理事長より、JAXA の事業と今後の課題について、ヒアリングを行い、その後、意見交換を行った。主な意見の概要は以下のとおりであった。

- ・ 日本にこれまで方針決定機関がなかったことから、宇宙開発戦略本部の設置は意義深いものであった。宇宙開発委員会があったが、民間活動については所掌しないなどの問題があった。
- ・ 宇宙開発利用体制については、屋上屋になるような行政組織は問題ではないか。その意味では、一元化されることもあり得るのではないかと。
- ・ 「宇宙 3 機関は融合してきており、効率性の観点からも意味があったのではないかと。経営的な面では不都合はないのではないかと。」との説明に対し、否定的なコメントがあった。
- ・ 「JAXA はあくまで執行機関である。」との説明に対し、実際には政策決定に関わっており、今後は、宇宙基本法を踏まえ、政治主導で意志決定を行うべきではないかと。

以上